

29 運天港由来

源為朝が、保元の乱に敗れて伊豆の大島に流され、そこからさらに流れ流れて、国頭の今帰仁村運天港というところに流れ着いたようであるが、その運天港という名前の源は、付いたということは、結局為朝公の、運が天に通じて着いた港ということで運天港という名前になったわけです。

為朝公はそれから、運天港からずっと南下して、昔の南山城主のところまで来て、その南山城主は大里按司であるが、大里按司の妹といい仲になって、今、ワタキナムイという森がありますが、そこでいろいろと語り合った場所だということでワタキナという名前が付いて、今でも拝所としてあがめられています。

その二人からできた子どもが、尊敦すんとうんという名前が付いて、それが舜天王になって中山王になったというところで、その妻子を残して為朝がさらに本土に行ったところが牧港まちなと。浦添にあるやつですが。そして、妻子は

為朝の帰ってくるのを待ちわびて、マチミナトが牧港
になったというお話です。

字真栄里 島袋仁栄

類話

字糸満 上原亀吉

字阿波根 山内昌朝

字与座 伊敷清保、城間ウシ、賀数カメ

字新垣 宜野座仁一郎

字南波平 伊集朝助

字伊原 玉城ハル